

松本市

緑のデザインマニュアル

いのち育む ところ育む

水と緑のまち 松本

いのち育む ところ育む

水と緑のまち 松本

目次

I 基本的な考え方	1	(2) 立ち止まる魅力をつくる.....	34
1 目的.....	1	緑陰をつくる.....	34
2 位置づけ.....	2	緑に触れる.....	34
3 構成.....	2	(3) 空間を演出する.....	36
4 使い方.....	4	水や光、風に配慮する.....	36
(1) 大切にす視点を.....	4	連続性を確保する.....	37
(2) マニュアルの対象.....	5	5 地域と調和し、活力を生み出す[公共施設]	39
(3) 計画・設計にあたって.....	5	(1) 楽しむ空間をつくる.....	39
(4) 維持管理・改善にあたって.....	5	(2) 印象付ける.....	40
(5) 緑との関わりを通して.....	5	(3) 環境や地域に配慮する.....	41
II 緑のデザインマニュアル	6	6 歴史・文化に配慮して、地域の環境を守る	42
1 人々の集いや賑わいを生み出す[中心市街地]	6	(1) 歴史・文化を伝える.....	42
(1) まちを印象付ける.....	8	(2) 遠景を考慮する.....	43
店先を彩る.....	8	(3) 緑との関わり.....	44
まちの目印をつくる.....	9	III 資料編	45
緑陰を確保する.....	10	1 建物用途に応じた緑化のポイント.....	45
(2) アクティビティを生み出す.....	11	2 緑化の推進に関わる支援制度等.....	51
緑陰を確保する.....	11	3 落ち葉の堆肥(腐葉土)を作ろう.....	52
空間に変化を感じさせる.....	12	4 生物多様性のホットスポットを未来へつなぐ.....	54
都市景観を引き立てる.....	12	5 特定外来生物を入れない、捨てない、拡げない.....	55
(3) 交流を支える.....	14	6 農薬に頼りすぎない維持管理.....	56
緑に触れる.....	14	7 樹種の紹介.....	57
緑に集まる.....	15	コラム① 緑化に関わる空間の構成.....	10
光や音、香りを楽しむ.....	15	コラム② 水と緑のまちづくり.....	13
(4) 暮らしをつつむ.....	16	コラム③ 生垣による境界空間の緑化.....	21
2 暮らしの中に豊かさを感じさせる[市街地]	18	コラム④ 緑を活かした広告物の工夫.....	25
(1) ゆとりある暮らしを楽しむ.....	20	コラム⑤ 緑がもたらす効果.....	25
(2) 訪れる人、働く人に配慮する.....	22	コラム⑥ 「花」や「緑」を五感で感じよう.....	29
開放的な空間をつくる.....	22	コラム⑦ オープンガーデン.....	31
大きさを和らげる.....	23	コラム⑧ 花いっぱい運動発祥の地 松本.....	38
(3) 周辺環境に調和する.....	24	コラム⑨ 緑のカーテンによる環境教育.....	38
3 地域の景観や環境と共生する[田園・里山]	26		
(1) 地域に配慮する.....	28		
(2) 自然環境に配慮する.....	28		
4 快適に過ごすことができる空間を整える[公共空間]	30		
(1) 歩く楽しみをつくる.....	30		
季節を感じる.....	30		
調和を保つ.....	32		
緑陰をつなぐ.....	33		

基本的な考え方

I-1 目的

松本市緑のデザインマニュアル(以下「マニュアル」という。)は、平成27年3月に策定した松本市緑の基本計画(以下「基本計画」という。)に掲げた将来像「いのち育む ところ育む 水と緑のまち 松本」の実現に向けて、私たちが心地良いと感じる「質」を重視した緑化の推進を図ることを目的に見直し作成しました。

見直し作成にあたっては、平成6年3月に作成した旧緑のデザインマニュアル(以下「旧マニュアル」という。)に示した都市緑化の手法等を引き継ぎつつ、市街地の限られた空間に緑を増やす工夫や今後の管理・改善に向けた工夫、緑を育む河川や湧水との調和、緑の恩恵を再認識して感性や知識を育てることへの配慮などの新たな視点を盛り込むこととしました。

市民・団体、事業者、行政が、このマニュアルを活用することにより、心地良いと感じられる水と緑を活かした心潤うまちづくりを進めましょう。

松本市緑の基本計画

(平成27年3月)

水と緑のまちの将来像

いのち育む ところ育む 水と緑のまち 松本

計画の視点

「量」から「質」への 転換

「量」から「質」へと発想を転換し、緑の「量」のみに重点を置くのではなく、心地良さや美しさといった「質」の向上を重視します。

「いのちの大切さ」 を見つめ直す

緑のサイクルを「いのちの循環」と捉え、「いのちの大切さ」を見つめ直します。

「緑との関わり」を 重視

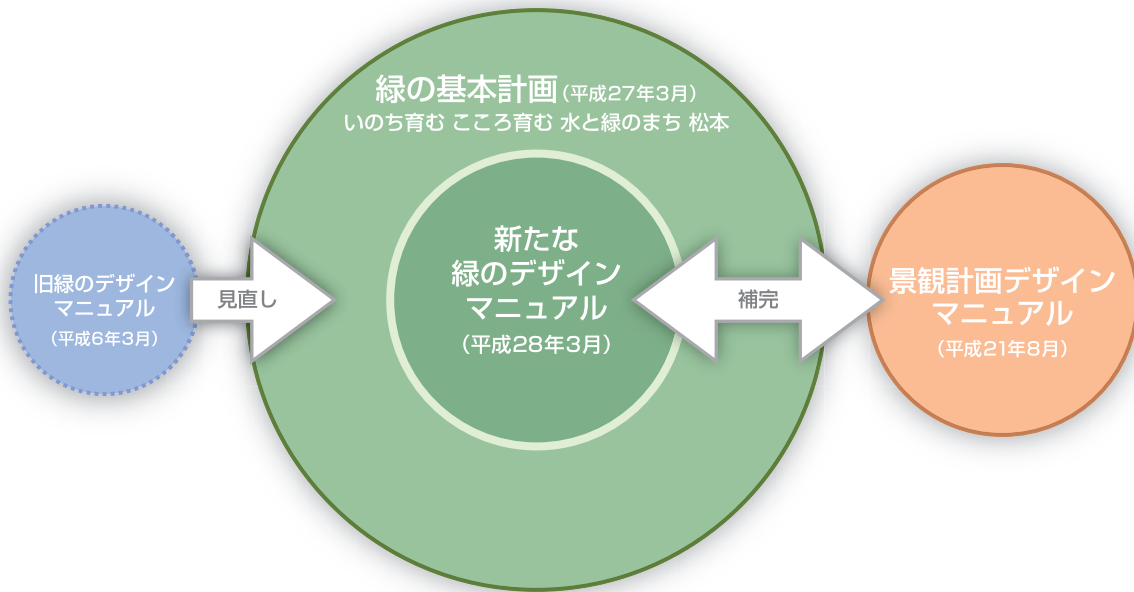
五感を通して、水と緑が持つ恵みや豊かさを感じられる、人と緑の関わりを重視します。



I-2 位置づけ

マニュアルは、旧マニュアルを発展的に見直し、基本計画に沿って作成したものであり、計画に掲げた施策を推進・実現するための「緑化の手引書」です。

また、建築物等の建設や屋外広告物を掲出する際の作法(デザイン上の配慮/デザインコード)を取りまとめた松本市景観計画デザインマニュアル(平成21年8月)を補完し、主に市街地や住宅地などの都市の緑化を推進・実現するための手引きとなります。



I-3 構成

マニュアルは、「水と緑のまちの将来像」実現に向けた具体的な手法・イメージを示すものであり、目標・方針・手法の3つから構成して、緑化の工夫のポイントを示します。

水と緑のまちの将来像

いのち育む ところ育む 水と緑のまち 松本



緑のデザイン目標

目指すべき姿や到達点を、「緑のデザイン目標」として定めます。







緑のデザイン方針

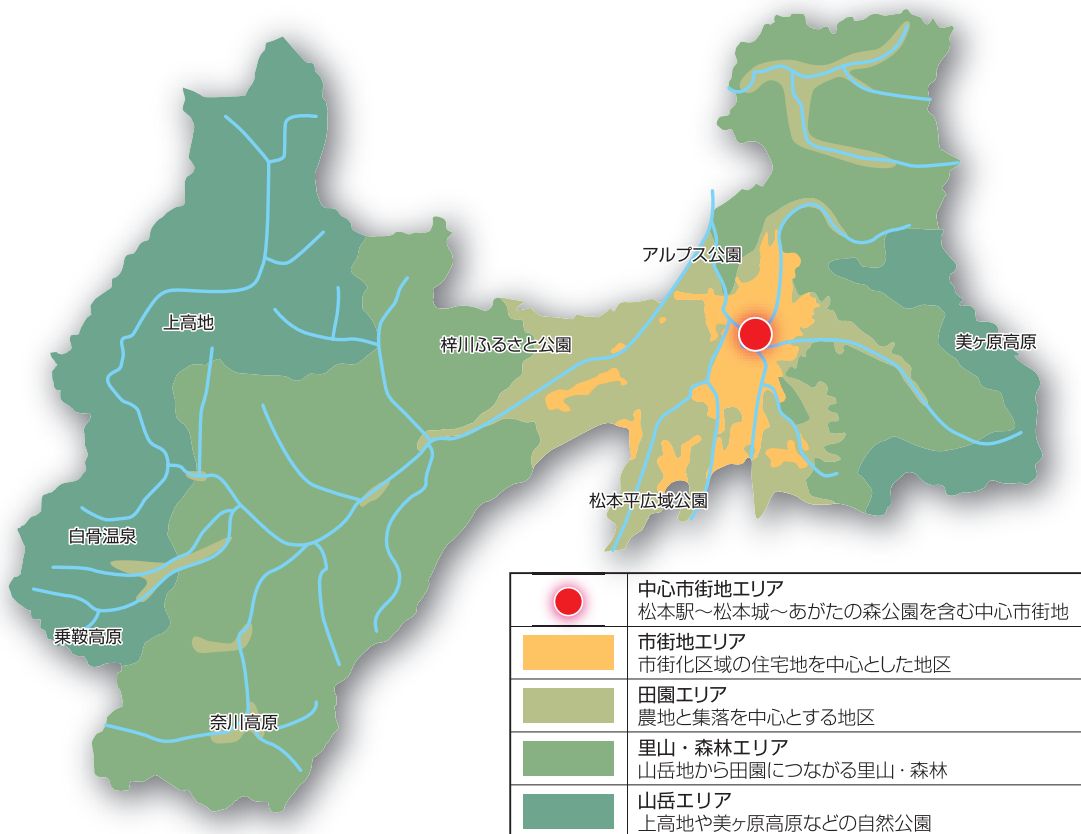
目標を達成するために、緑化推進の方向性を「緑のデザイン方針」として示します。

緑のデザイン手法

私たちの暮らしやまちの中で、緑化を推進・実現するため、その手引きとなる手法・イメージを「緑のデザイン手法」として示します。

緑の基本計画に掲げた「水と緑のまちの将来像」とマニュアルの適用

 関わり	● 私たちの暮らしと、水や緑との関わり 「水と緑に誇りと愛着を持ち、育て楽しむ文化をはぐくん でいる」まち	マニュアルが主に 対象とする範囲
 中心市街地	● 中心市街地エリア 「湧水や緑陰の周りに人々が集まり、賑わいを創り出して いる」まち	
 市街地	● 市街地エリア 「水と緑を身近に感じ、のどかな暮らしを楽しんでいる」 まち	
 田園	● 田園エリア 「美しい川に生まれ、豊かな自然の中で農業を営んでいる」 まち	
 里山・森林	● 里山・森林エリア 「地域の魅力を大切に、豊かな緑を活かして人々が交流 している」まち	
 山岳	● 山岳エリア 「特色ある自然の中で、多種多様な動植物が共生している」 まち	



目
的
位置
づけ
構
成
使
い
方

● 人々の集いや賑わいを生み出す

主に中心市街地では、人々の集いや賑わいを生み出す緑をデザインします。

主な場所	主な主体	主な手法
中心市街地	事業者、店主、住民	事務所や店舗等の緑化、窓辺や店先の工夫、湧水の活用、共同住宅の緑化 など

● 暮らしの中に豊かさを感じさせる

主に市街地では、身近な暮らしの中に豊かさを感じさせる緑をデザインします。

主な場所	主な主体	主な手法
市街地	住民、事業者	戸建て住宅の緑化、事業所・工場や駐車場の緑化、ポケットパークの設置 など

● 地域の景観や環境と共生する

主に郊外の田園や里山などでは、地域の景観に配慮し、周囲の自然環境と共生する緑をデザインします。

主な場所	主な主体	主な手法
田園・里山	住民、行政	田園や里山集落との調和、自然景観への配慮 など

● 快適に過ごすことができる空間を整える

道路や緑地、河川や湧水周辺などでは、快適に過ごすことができる空間として緑をデザインします。

主な場所	主な主体	主な手法
公共空間	行政、住民	まちかどの緑化、水辺の緑化、街路樹の設置 など

● 地域と調和し、活力を生み出す

公共施設やその敷地では、地域と調和し、活力を生み出す緑をデザインします。

主な場所	主な主体	主な手法
公共施設	行政、利用者	施設の緑化、中庭の緑化、園庭の芝生化 など

● 歴史・文化に配慮して、地域の環境を守る

受け継いできた歴史・文化に配慮して、地域の環境を守る緑をデザインします。

主な場所	主な主体	主な手法
その他	多様な関係者	水と緑の保全、河川や街路を通した眺めの確保 など

I-4 使い方

(1) 大切にしている視点

心地良い空間をつくる

樹木や花などの緑は、私たちの暮らしに安らぎや潤いをもたらします。

単に緑の量を増やし、見た目を飾り付けるだけでなく、心地良く感じられる工夫をしましょう。

樹形や配置、管理の頻度などの工夫の仕方は、緑の使い方(緑陰で過ごす、シンボルとして植える、彩りを添えるなど)によっても異なります。

距離感を大切に

手で触れることができる芝生や花、緑陰をもたらす街路樹、遠景に眺める山々など、場所や周辺とのつながりを考えることが大切です。私たちと緑の距離感を大切にして空間をデザインしましょう。

樹木や花などの成長(時間の流れ)を見据えることも大切です。



適性に配慮する

市の木「アカマツ」や市の花「レンゲツツジ」をはじめとして、本市には冷涼で雨が少ない気候に適した多くの緑があります。

しかし、市街地の街路や住宅の庭など都市における緑の生育環境は過酷であり、植える場所への適性(狭い空間、日当たり、成長を妨げる電線や建物など)に配慮することが大切です。

(2) マニュアルの対象

マニュアルは、公共施設や住宅等の設計者だけを対象としているものではありません。所有者や店主、事業者などが、身近な緑化のあり方について考え、心地良いと感じる空間や賑わいの空間をイメージするための手引きとして利用してください。

マニュアルに示した手法は、主に松本市内に見られた一例を用いてイメージを伝えているものです。したがって、ここから生み出される様々な工夫や新たな手法の広がりを期待するものであり、記載した内容が緑化の手法を限定・拘束するものではありません。

(3) 計画・設計にあたって

マニュアルを使う上では、「緑のデザイン目標」を共通認識するところを出発点としましょう。

その上で、「緑のデザイン方針」を踏まえ、具体的なイメージを示した「緑のデザイン手法」を参考にしながら、地域特性や建物等の役割、連続性・多様性・統一感などを考えて計画・設計しましょう。

なお、設計者が所有者や事業者等に代わって計画・設計する場合は、「基本計画」や「マニュアル」について、所有者等が理解・共有できるように配慮し、心地良いと感じる空間を創出しましょう。



(4) 維持管理・改善にあたって

新たな緑化は、心地良いと感じる空間を創出する第一歩です。所有者等は、時間の経過や建物等の使い方が変わることに応じて、緑を適切に維持管理・改善し、その緑を将来に引継ぐことを大切にしましょう。

また、多様な生物の共生に配慮して、「総合的防除」も重要です。

(5) 緑との関わりを通して

緑との関わりを通して、緑が持つ多面的な機能や効果、緑の恩恵を再認識し、私たちの感性や知識を育てる機会としましょう。



目

的

位置
づけ

構
成

使
い
方



緑のデザイン目標

II-1 人々の集いや賑わいを生み出す【中心市街地】

主に中心市街地では、人々の集いや賑わいを生み出す緑をデザインします。

中心市街地

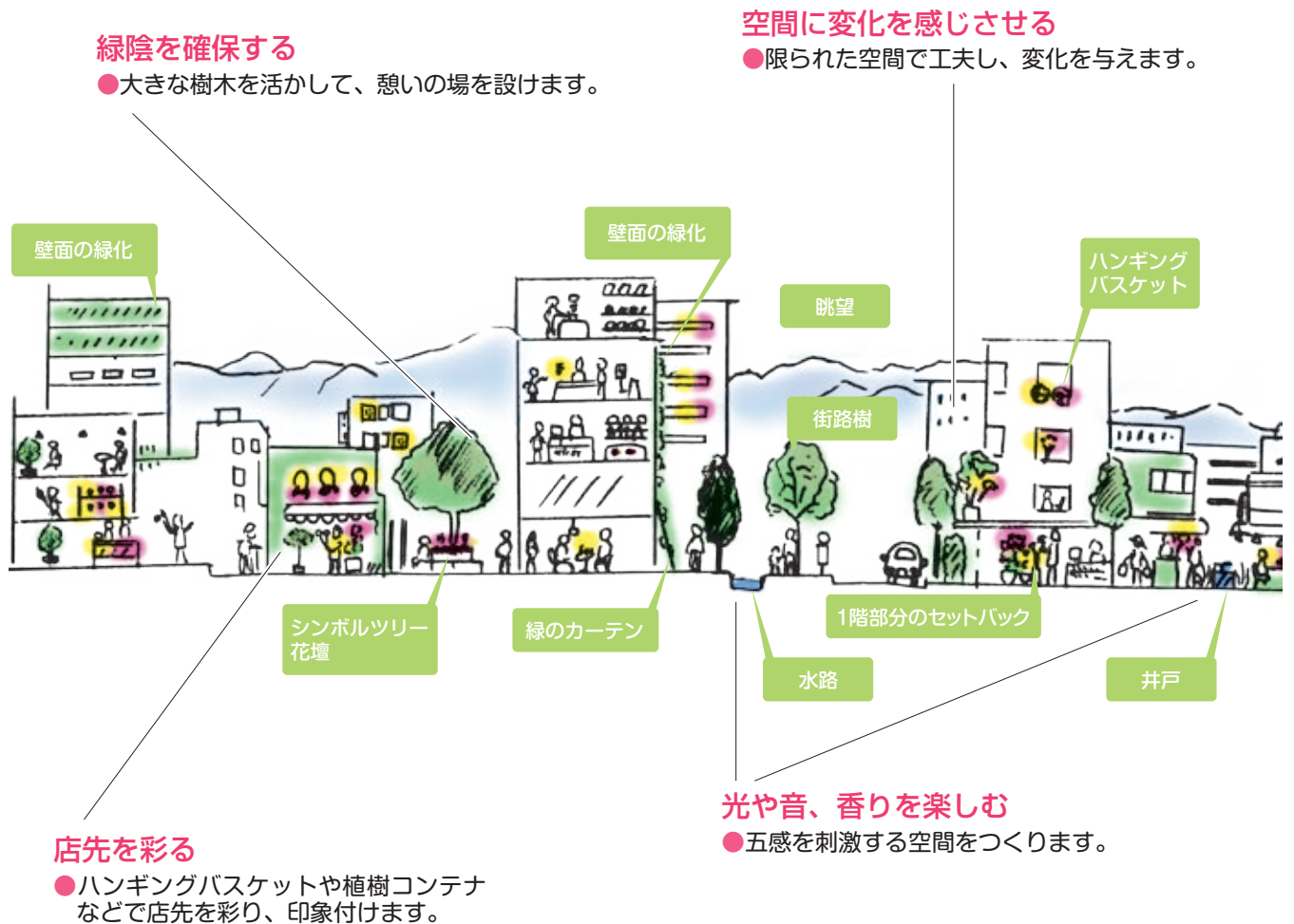
市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



暮らしをつつむ

- 共同住宅等では、画一的ではない緑の表情をつくり、コミュニケーションの場を創出します。

緑陰をつなぐ

- 緑陰をつなぎ、回遊を促します。

緑に集まる

- 公園や広場などを活用して、新たな交流を創出します。



緑に触れる

- 花植え等の活動を通して、緑に触れる機会とします。

まちの目印をつくる

- 小さな空間を活用して、まちの目印をつくります。(1㎡の緑化)

都市景観を引き立てる

- 周囲への見え方などに配慮し、魅力的な都市景観をつくります。

緑のデザイン方針 (1) まちを印象付ける

- 店先を彩り、季節感の創出や店舗の特徴を印象付けます。
- まちの目印をつくり、往来する人々の目を楽しませます。
- 大きな樹木等により印象を高め、緑陰を確保します。

緑のデザイン手法

店先を彩る

緑を活かして店舗の入り口や窓辺に工夫を凝らし、ハンギングバスケットや植樹コンテナなどで店先を彩り、季節感を出します。店舗の特徴を印象付け、人々の集いや賑わいを生み出します。



- 厚みのある壁面緑化*は、店舗を印象付け、歩行者にとっても、印象に残る景観をつくります。
- 窓枠の採光を遮らないような配慮や、曇囲気を保つための適切な管理が大切です。

*壁面緑化：建物の外壁部分を植物で覆い緑化することで、ツタ類等の植物を這わせることが一般的です。建物の断熱性を高める効果や防音効果、二酸化炭素の吸収効果などもあります。



- ハンギングバスケットの鮮やかさをアクセントに用いて、店舗のイメージを作り出します。
- 季節に合わせた花の植え替えなどにより、その魅力を継続します。



- 境界空間に松と庭石を配置し、蔵造りの店舗と調和した空間を演出します。(P10 コラム①)
- 車両の通行が多い通りに面しており、歩行者等に配慮した定期的なせん定も大切です。



- 看板周りの緑化は、無機質な壁面をやわらかに表現します。
- 良好な状態を保つことで、企業イメージの向上にもつながります。(P25 コラム④)

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 芝生や生垣などにより、店舗等の駐車スペースを緑化します。
- 来店者等の車両がない時でも、彩りを添えます。

緑のデザイン手法

まちの目印をつくる

小さな空間を活用した緑の配置や演出の工夫によって、まちの目印をつくり、店舗等の印象やまちの表情を豊かにし、往来する人々の目を楽しませます。



- 店舗の入口に樹木を配置し、通行が多い通りと落ち着いた店内の空間を隔てます。
- 視線の集まる角地に植栽し、街角に憩いの場を提供し、潤いのある景観を演出します。



- 市街地のわずかなスペースを活用した1㎡緑化*により、都市の美観を形成します。
- 広告物の足元を花々で囲むことにより、彩りを添えます。

※1㎡緑化：花いっぱい運動を促進し、都市の美観を形成するために、わずかな土地を花壇にするなどの取組みです。松本市環境衛生協議会の事業として実施されてきた取組みを引き継ぎ、これからも小さな空間で工夫した緑化を進めます。



- 建物への入口には、低木などの緑を配置し、訪れた人を誘導します。
- きれいに刈り込まれた植栽の形状を保つことは、建物全体の管理を印象付けることにつながります。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン手法

緑陰を確保する

緑陰をつくり出す大きな樹木を活かして憩いの場を設け、潤いのあるまちの表情を印象付けます。

中心市街地



- 多くの人々が集まる空間では、大きな緑陰を設け、潤いのあるまちの表情を印象付けます。
- 井戸と樹木の一体的な整備により、魅力向上が期待できます。

[写真：松本駅お城口広場]
(大型木製プランターによる緑化)

市街地



- 駐車場の一角に樹木を配置し、歩行者のたまり場をつくり出します。
- バス停と一体的に整備することで、潤いのあるバス待ち空間の創出も可能です。
- 下枝周りの空間が広がれば、歩行者の移動や目線にも、さらに優しくなります。

田園・里山



- 街角のたまり場は、植栽で演出し、路地先のアイストップをつくり出します。
- 石造りのサークルベンチは鳥害により汚れやすいので、賑わいの空間とする上では、その対策も不可欠です。

[写真：神明町]

公共空間

公共施設

その他

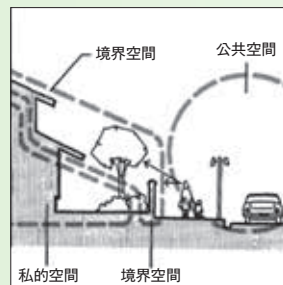


コラム①

緑化に関わる空間の構成

心地良いと感じられる空間を増やすためには、道路や公園など公共空間と住宅地などの私的空間の間にある、境界空間の緑化が大切です。

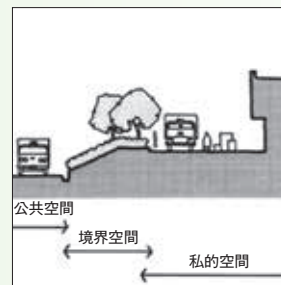
境界空間は建築物の外壁を含む門・塀・擁壁・樹木・生垣・広告物等により構成されており、その空間を活かして、調和のとれた緑化を工夫することは、心地良さを創出するうえで重要なポイントです。



住宅地の例



商業地・事業所地の例



工場地・事業所地の例

緑のデザイン方針

(2) アクティビティを生み出す

- 緑陰によって、まちを歩く人々が休息できる心地良い空間を提供します。
- 水と緑を使って、まちの空間に変化を与えます。
- 風情に配慮して緑を活かし、都市の景観を引き立てます。

緑のデザイン手法

緑陰を確保する

木々がつくり出す緑陰は、日差しを遮り、やわらかな木漏れ日をもたらします。心地良い休息の空間を形成し、来街者や働く人の回遊を促し、イベントや観光などのアクティビティの展開につながります。



- 緑陰とベンチを配置し、水と緑陰の動きが重なった、生き生きとした休息の場をつくり出します。
- 特色ある湧水を活用したり、河川との連続性を高めれば、まちなかの開放的な空間として魅力が高まります。

[写真：縄手通り]

- イベントで設置した日傘とベンチが、街路樹の緑陰と組み合わせ、滞留できる空間をつくり出します。
- 緑陰をたどりながら歩いたり、ベンチで休んだり、会話したり、活動の選択肢に幅をもたらします。

[写真：大名町通り(松本カーフリーデー)]

- 水と緑の豊かさを感じられ、心地良く過ごすことができる憩いの空間を増やすため、水と緑のまちづくりに取り組んでいます。(P13 コラム②)

[写真：伊織壺水前小公園での公園づくり体験]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

緑のデザイン手法

空間に変化を感じさせる

中心市街地の限られた空間では、樹木や花の配置・導入を工夫し、まちなかの空間に変化を与えることで、アクティビティを生み出します。



- 橋の高欄にハンギングバスケットを設置して、通りを彩ります。
- 花の植え替えなど季節に応じた取組みを継続できれば、さらに魅力が高まります。

[写真左：夏の千歳橋 右：冬の千歳橋]



- 建物の足元に緑化の工夫を施し、オフィスビルが並ぶ大通り沿いの空間に変化を与えます。



- 建物をセットバックし、湧水を流す水路と、その流れに沿って芝生やプランター等を配置します。
- 道路を挟んで向かいにある「井戸」に呼応した水と緑の仕掛けです。

緑のデザイン手法

都市景観を引き立てる

歴史的な風情を残し各所から山々を見渡せる中心市街地では、緑の配置や高さなどの工夫と周囲への眺望や見え方への配慮により、魅力的な都市景観を形成します。



- 街路樹に呼応した壁面緑化は、緑視率^{*}が高く、季節感を感じる空間をつくります。

^{*}緑視率：人の目線から見た視野に占める緑の割合。視界に入る緑の割合を表すので、緑の豊かさを評価する指標として用いられることもあります。

[写真左：深緑 右：紅葉]



- 建物のベランダを花々で飾り、来街者を出迎えます。
- 緑を活かしたシンプルな飾り付けは、まち並みとの調和も保ちます。



- ランドマークである山容を望む街路空間を確保するため、街路樹の配置や高さを工夫します。
- 街路樹は、まちなかに潤いを生み出し、人々の視線を柔らかく受け止めます。

[写真：あがたの森通り]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



水と緑のまちづくり

中心市街地には事業所等が集積し、そこで働く人や学生、観光客で賑う一方で、心地よく過ごすことができる憩いの場所（井戸、小公園、オープンスペース等）が少なく感じられます。

そこで、市街地に点在する井戸や小公園、オープンスペースなどで水と緑の空間整備を行いました。中心市街地の空間の性質と、利用者や周辺地域との関係などを考え、利用する人の過ごし方を想像し、水や緑とベンチ等を一体的に配置してより質の高い空間となることを目指します。

今後も、水と緑の豊かさを感じられる空間を増やし、まちの賑わい創出に活かしてだけでなく、市民の皆さまによって新たな使い方や楽しみ方を発見されることを期待しています。



中町東緑地



辰巳の御庭



伊織霊水前小公園



深志の湧水



緑のデザイン方針 (3) 交流を支える

- 緑に触れる機会を増やし、人々の交流を生み出します。
- 人々が集まる空間をつくり、新たな交流を創出します。
- 緑の特性を活かして、私たちの五感を刺激し、都市の活動を支えます。

緑のデザイン手法

緑に触れる

緑が少ないと感じられる中心市街地では、緑化に関わるイベントや花植え等の活動は、緑に触れる良い機会です。また、ベンチ周りなど手が届くところに緑を設けて、私たちと緑の距離を近づけます。

中心市街地



- 花植えの活動等は、身近なまちなかの緑を増やし、地域交流のきっかけをつくれます。

[写真：花いっぱい運動]



- ハンギングバスケット・コンテナガーデンコンテストや、フラワーコンテストなど花いっぱい運動の流れを受け継いだ様々な取組みは、緑を育む交流につながっています。(P38 コラム⑧)

[写真上：ハンギングバスケット・コンテナガーデンコンテスト]

[下：フラワーコンテスト]



- 落ち葉などに手で触れることも、緑の恵みや豊かさを感じる機会です。

[写真：松本神社]



市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

緑のデザイン手法

緑に集まる

公園や広場、商業施設と一体となったオープンスペースなどでは、その空間を活用した様々なイベントも開催されます。緑の持つ恵みや豊かさを感じ、新たな交流を創出する機会にもなります。



- オープンスペースは、魅力あるイベントなどに活用し、人々が集まり、交流する場とします。
- 樹木が作り出す緑陰は、暑い日差しを避けて休息し、会話を楽しむ空間になります。

[写真：中央西公園(花時計公園)]



- 広場を利用した防災訓練は、地域の防災力を高め、災害に強いまちづくりと地域交流の向上につながります。

[写真：城北地区防災緑地]



- 公園などの人々が集まる緑の空間では、目線以下の樹木の下枝を払い、死角をつくらないように配慮します。
- 生み出した空間は、子どもが遊び、親子が休憩する場となります。

[写真：芳川公園]

緑のデザイン手法

光や音、香りを楽しむ

新緑の緑や色とりどりの花々、木々のざわめきや、植物から放たれる香りなど、緑の特性を活かし、私たちの五感を刺激する空間をつくり出すことで、魅力ある市街地の活動を支えます。



- 蔵造りの建物前面に植栽を施し、趣のある空間とします。
- 夜間のライトアップは、昼間とは異なる趣をつくり出し、壁面に揺らぐ樹影が新たな魅力を生みます。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 市街地の湧水は、「まつもと城下町湧水群」として、平成の名水百選に選定されました。
- 緑やベンチ等を配置して、湧水が流れる音や、水の冷たさを楽しめる空間とします。(P13 コラム②)

[写真左：伊織霊水 右：鯛萬の井戸]



- 「かおり風景100選」に選定されたシナノキは、花の開花にあわせて甘い香りを漂わせます。(P29 コラム⑥)
- 街路樹を連続して配置して、風や光を適度にコントロールし、人々の活動を促します。
- 歩行者が留まるスペースが少なく、樹液が落ちることなどの問題もあります。

[写真：初夏の大名町通り]



- まちの空間に変化をもたらすことは、長く、繰り返してまちを楽しむ要素となります。
- イルミネーション等により、人々をひきつける空間を創出することは、市街地の交流を支えます。

[写真：冬の大名町通り]

緑のデザイン方針

(4) 暮らしをつつむ (共同住宅等)

- 既存樹を活かした建物配置の工夫や、施設の規模に見合った緑を確保します。

緑のデザイン手法

共同住宅等では、建築にともなって既存樹木等が伐採され、駐車場確保などが優先されたために十分な緑地が確保されない事例も多くあります。戸建て住宅等に比べて広い空間を活かして、緑化を工夫し、画一的ではない緑の表情をつくります。また、多くの人々が集まって暮らす空間で、緑を活用してコミュニケーションの場を創出します。



- エントランスへの導入に生垣を設置し、その奥に見える坪庭が視線を引き付けます。
- 建物への動線を生垣などで彩る工夫は、道路から奥まった敷地形状で有効です。



●建物周辺を緑化することで、建物壁面の圧迫感を軽減し、道路との緩衝帯とします。



●道路に面した緑化は、歩行者の視線を遮ります。

[写真下：青島地区計画区域]



●エントランス前面を広く取り、駐車スペースの間に緑を設けることで、騒音や排気ガスを和らげます。

●低木や高木を組み合わせることで、さらに効果を高め、建物と調和した空間となります。



●アパートの設備や自転車置き場を覆い隠し、周辺の建物や通りとの調和を図ります。

●樹木の成長に伴って死角を生み出さないように、枝葉の手入れを行うことは、まちの安全性を保つことにもつながります。



●緑に囲まれたオープンスペースを提供し、住民の憩い・集い、コミュニケーションが生まれる場とします。

●住宅と連担して公共空間と私的空間を緩やかにつなぎ、各家の中庭のような空間をつくり出します。(P10 コラム①)

[写真：小宮地区計画区域]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン目標

II-2 暮らしの中に豊かさを感じさせる【市街地】

主に市街地では、身近な暮らしの中に豊かさを感じさせる緑をデザインします。

中心市街地

市街地

田園・里山

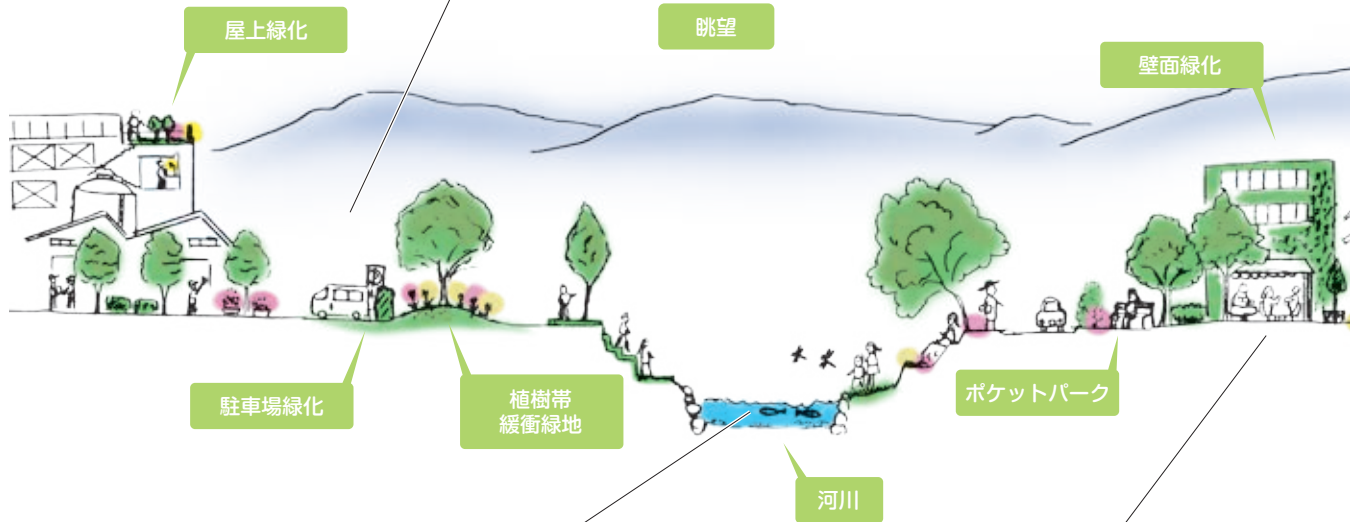
公共空間

公共施設

その他

開放的な空間をつくる

● 空き地を緑化し、周辺環境に配慮した開放的な空間を作ります。



遠景を考慮する

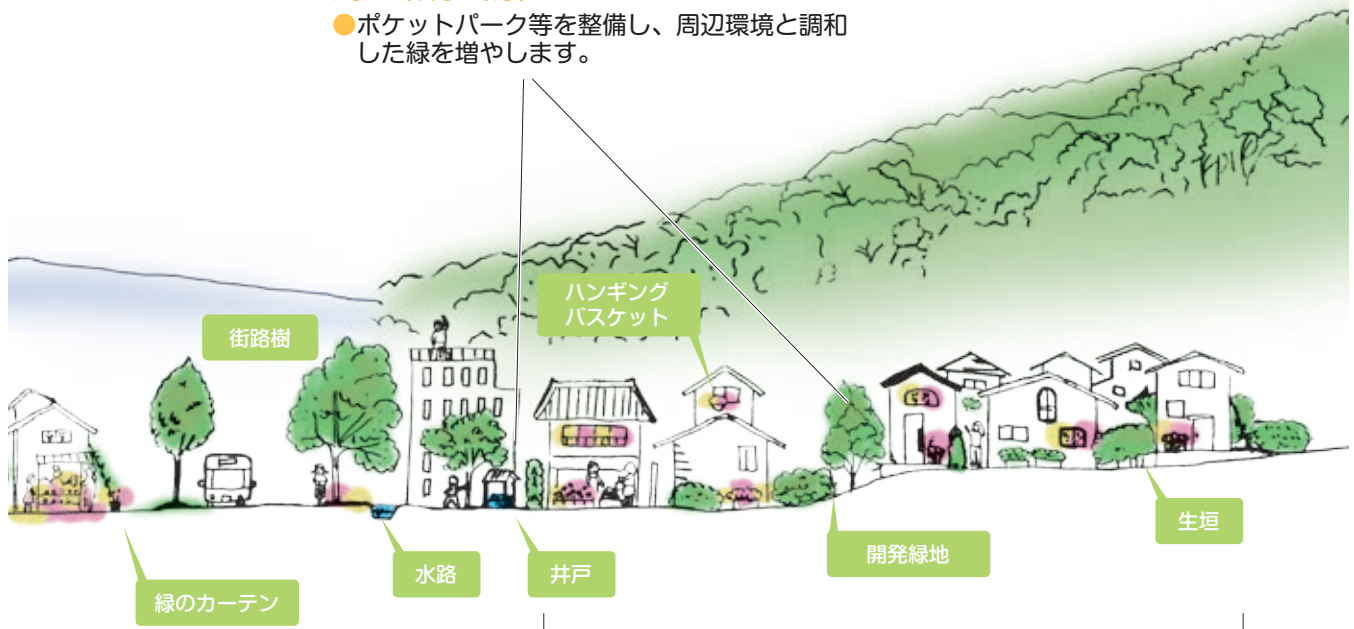
● 河川や街路を通した遠景の眺望を守ります。

大きさを和らげる

● 隣地との境界や壁面の緑化などにより、建物の圧迫感を和らげます。

周辺環境に調和する

- ポケットパーク等を整備し、周辺環境と調和した緑を増やします。



ゆとりある暮らしを楽しむ

- 戸建て住宅等では、生垣やハンギングバスケット、緑のカーテンなどにより、周辺のまちなみに配慮した緑化を工夫します。

緑のデザイン方針

(1) ゆとりある暮らしを楽しむ（戸建て住宅等）

- 周囲のまちなみに配慮して緑化を工夫し、ゆとりある暮らしの空間をつくります。

緑のデザイン手法

城下町には特有の道路形態が残り、幅の狭い道路に近接した住宅等も多くあります。道路との境界部分で緑化を工夫し、まちなみと一体となった豊かさを感じられる緑の空間を形成します。街路樹と調和した生垣の設置や、通りに向かって庭先を開くことなどにより、連続性と開放性があり、ゆとりある暮らしの空間をつくり出します。



- 水路に面したロケーションを活かし、水路側に低木、住戸側に中高木を配置し、敷地内の緑を見せます。
- 接道部には板塀を配置し、植栽との調和や周辺景観への配慮が感じられます。



- 低い石垣と生垣を組み合わせ、敷地への連続性を確保しつつ、明確な境界空間をつくり出します。
- 道路につながる出入り口の動線に合わせて緑化を行います。



- 通りに沿って、各家の境界空間に生垣や樹木を連続するよう配置します。(P21 コラム③)
- 建物をセットバックして、住戸と通りの間に庭先の緑の空間を設けます。

[写真：芳川小屋地区計画区域]



- 玄関へのアプローチに沿って芝生や樹木を配置し、街路に庭先を開き、奥行きのある空間を開放します。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 駐車スペースを高木、植栽、鉢植えなどの多様な緑で取り囲み、庭のような空間とします。
- 建物前面に高木を配置し、室内に緑陰を映り込ませるとともに、通りからの視線を遮る役割を果たします。(P25 コラム⑤)



- 住宅のフェンスにハンギングバスケットを掛け、道行く人たちの目を楽しませます。(P31 コラム⑦)
- プライベートな空間と道路との緩衝空間にもなります。



- 南側に面した大窓を緑のカーテン[※]で覆い、室内への日差しを遮ります。(P38 コラム⑨)
- 花のプランターなどを組み合わせることで、冷却効果がさらに高まります。

※緑のカーテン アサガオなどのツル性の植物を、窓の外や壁面に張ったネットなどに這わせて、カーテンのように覆ったもの。日差しを遮ったり水分を葉から蒸散することによる省エネ効果や、見た目の美しさを演出する効果もあります。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

コラム③

生垣による境界空間の緑化

生垣は、境界空間の緑化の代表例といえます。ブロック塀のように地震による倒壊の心配もなく、適度に風を通し、身近な緑として道行く人も楽しめます。

生垣の手入れは少し大変ですが、日常的に緑にふれることで、自然と豊かな情緒を育むことにもつながります。適切な管理を定例を行うことにより、周辺環境に配慮した心地良い空間づくりにご協力ください。



緑のデザイン方針 (2) 訪れる人、働く人に配慮する

- 空地进行緑化し、ゆとりが感じられる開放的な空間をつくります。
- 外構や植栽を工夫して、大規模な建物の圧迫感を和らげます。

緑のデザイン手法

開放的な空間をつくる

道路に面した境界空間に植栽を設けたり、フェンス等を用いる場合でもツル性植物や生垣等を組み合わせることで、周辺環境に配慮した空間をつくります。敷地内の空地は20パーセント以上の緑化に努め、駐車場周りの緑化や立木設置などを行います。



- 広い駐車場の中央部分に高木を植栽し、緑陰をつくります。
- 樹液や枝葉が利用者に害を与えないよう、樹種選定の配慮や定期的なせん定が必要です。

[写真：松本市美術館]



- 歩道と建物の境界空間にフェンスや塀を設けず、緑化して建物の圧迫感を和らげます。

[写真：松本臨空工業団地]



- ゆとりある外構と植栽の手法は、広い敷地面積を有する郊外の事業所にふさわしいものです。

[写真：松本臨空工業団地]



中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 目線の高さに生垣を設けて、無機質な駐車場の目隠しとします。
- 圧迫感を和らげるためには、擁壁の高さを低くしたり、擁壁を2～3段に分けたりして、その間に低木等を植栽します。

[写真：松本臨空工業団地]



- 事業所の中庭を緑化して、開放的な空間をつくり、交流の生まれる場所とします。
- 職場の環境を改善し、働く人々のリフレッシュにも寄与します。

[写真：平成21年度松本市景観賞 建築物・工作物部門賞受賞作品]

緑のデザイン手法

大きさを和らげる

道路際まで壁面が迫る建物配置は、歩行者に圧迫感を与え、実際以上に建物を大きく感じさせることもあります。前面道路からの後退や、隣地と連続した空地の確保、壁面への工夫などによって、圧迫感を和らげます。



- 低層階の壁面を広く緑化し、建物の大きさを和らげます。
- 採光を遮らない工夫や手入れが必要です。



- 道路に沿って立木を配置し、駐車スペースを設けることで、狭い通りに面した大きな建物の圧迫感を和らげます。
- 駐車スペースに緑陰を生み出すだけでなく、立木の間隔にあわせた整然とした駐車を促します。



- 前面道路から後退した空間を緑化し、道路沿いに潤いをもたらします。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン方針 (3) 周辺環境に調和する

- 地域の環境や景観に調和した緑化を行います。

緑のデザイン手法

建物前面に緑地を確保したり、ポケットパーク等を設置して周辺環境と調和した緑を増やします。開発行為にともなって確保する緑地は、積極的に植栽や樹木を配し、地域と共生する空間とします。



- 開発行為によって造成した住宅地では、開発緑地を公園として整備し、シンボルツリーを配置します。
- 町会や周辺の住民の協働により、持続性のある維持管理に努めます。



- 歩道空間と建物との境界空間を、立木と植物で植栽します。
- 樹木の成長にともなって手入れが難しくなるため、将来の成長をイメージした配置計画が大切です。

[写真：中町・蔵シック館]



- 歩道と連なるゆとりある空間を確保します。
- 自転車が駐輪されることも多く、心地良い空間を維持するためには、利用者の理解と設置者の協力が不可欠です。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

コラム④

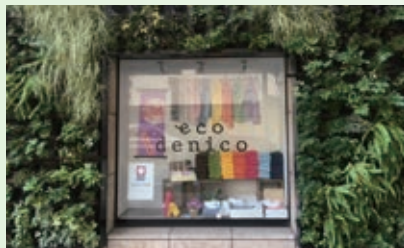
緑を活かした広告物の工夫

屋外広告物に緑を使用する例が増えていています。緑を使うことは、潤いや安らぎを与えるだけでなく、様々な効果が期待されます。

例えば、広告物のアクセントとして壁面緑化を用いることは、温暖化の低減、省エネルギー、空気の清浄効果、構造物の保護などの効果や、壁面への落書きやポスター貼りの防止効果も期待できます。

緑そのものを広告物として用いる事例もあります。自然素材を用いることで周囲との調和を図り、鮮やかな色合いで目を引き、個性を演出することができます。

多くの効果を持ち、豊かな景観を生み出す緑を、広告物にも取り入れてみてはいかがでしょうか。



広告物のアクセントとして壁面を緑化(他都市の事例)

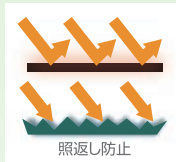


緑・花を広告物に用いた事例

コラム⑤

緑がもたらす効果

敷地の特徴に合わせた樹種を選定し、緑の配置を工夫することで、過ごしやすく、ゆとりと潤いのある居住環境を作ることができます。



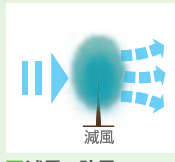
■照返しの防止

芝などを植栽し、室内への照返しを防止します。



■陽射しのコントロール

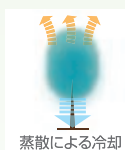
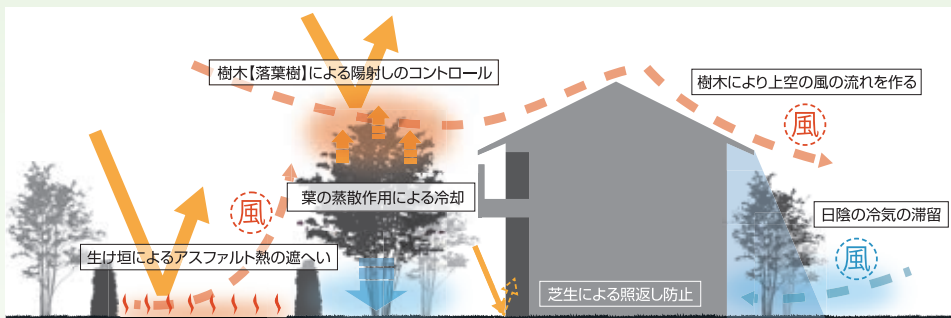
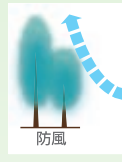
夏には茂った葉が日光を遮り、室温の上昇を抑えます。冬には落葉した樹木が通す、暖かな陽射しを室内へ採り込みます。



■減風・防風

季節によっては強い風が吹くことがあります。

建物周りに、樹木等を植栽し、強風を和らげ、風をコントロールします。



■蒸散による冷却

樹木が吸収した水分を葉から蒸発するとき周囲は、涼しく感じられます。

■その他の効果

緑に触れることでのヒーリング効果、延焼防止や騒音低減などの効果も期待できます。周囲の景観に配慮した四季折々の花や瑞々しい樹木は、私たちの目を楽ませるだけでなく、地域にコミュニケーションの機会をもたらします。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン目標

II-3 地域の景観や環境と共生する【田園・里山】

主に郊外の田園や里山などでは、地域の景観に配慮し、周囲の自然環境と共生する緑をデザインします。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

地域に配慮する

- 自然や周囲の景観、里山の集落などに配慮して、緑を保ちます。



自然環境に配慮する

●地域の自然環境に調和した緑化を行います。



中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

緑のデザイン方針 (1) 地域に配慮する

- 自然や田園の景観、里山の集落などに配慮して、緑を保ちます。

緑のデザイン手法

田園などの農地や里山には、美しい河川や豊かな自然と調和し、集落のコミュニティと一体となって受け継がれてきた水や緑の空間があります。その自然豊かな地域の特色に配慮して、緑を保全します。



- 地域の名峰が遮られることなく、眺望を楽しめます。
- 建物等の外構を植栽し、隣地との境界部も和らいだ印象を醸し出します。



- 田園風景に広がる屋敷林のつながりを守ります。
- 背景の山並みとともに豊かな田園風景を維持します。

緑のデザイン方針 (2) 自然環境に配慮する

- 地域の自然環境に調和した緑化を行います。

緑のデザイン手法

郊外で開発行為や土地の形質を変更する際は、既存の樹木や水路等は保全・活用し、切土や盛土などもできる限り少なくします。また、周囲からの見え方や周辺景観への調和に配慮した工夫を行います。

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 法面が生じる場合は、緩やかな勾配として、緑化します。
- 既存樹木等を活用し、構造物等の設置は最小限とします。



- ほ場整備を行わない選択により、自然な石積水路を活かした田園風景を守っています。
- 農業に頼りすぎない適切な維持管理も大切です。

[写真：平成27年度松本市景観賞 まちづくり活動部門受賞作品]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

コラム⑥

「花」や「緑」を五感で感じよう

「花」や「緑」から、何かを感じることはありませんか。

これまでは、不快なおいや騒音などへの対策を行ってききましたが、自然や地域の文化などを特徴づける香りや音を大切にしたい環境づくりも必要とされています。

花いっぱいで彩り鮮やかな花壇やシナノキが花を咲かせた大名町通りでは、目や鼻などを使って、心地良さを感じることができます。

春の辰巳の御庭では、桜の花と新緑の香りから季節を感じ、流れる井戸水の音が気持ちを落ち着かせてくれます。

自分の好きな「花」や「緑」を探し、体全体で感じ取ってみませんか。



花いっぱい運動



大名町のシナノキ



辰巳の御庭



緑のデザイン目標

II-4 快適に過ごすことができる空間を整える【公共空間】

道路や緑地、河川や湧水周辺などでは、快適に過ごすことができる空間として緑をデザインします。

緑のデザイン方針 (1) 歩く楽しみをつくる

- 花や実をつける樹木などの季節を感じることができる緑を用いて、四季折々の楽しみを生み出します。
- 周囲の環境に配慮して緑を選定、配置し、調和のとれた街路空間を整えます。
- 街路樹などでつながりのある緑陰を確保し、緑の回廊をつくります。

緑のデザイン手法

季節を感じる

緑が見せる四季折々の変化は、暮らしの中に変化をもたらし、私たちの感性や感覚をやわらかに刺激します。季節感を感じる樹木や花を、街路などの公共空間で活用し、まちなかを回遊する楽しみをつくります。



- 街路樹などの街なかの緑がもたらす季節感の演出は、歩く楽しみを一層高めます。

[写真：松本城お堀沿いの桜並木]



- 水路と一体的に季節感を演出することで、まちの表情が豊かになり、歩行者の目も楽しませます。
- 手入れ方法が多岐にわたることから、こまめな維持管理によって、魅力を継続することが大切です。

[写真：伊勢町通り]



- 統一感のある景観をつくりだすことで、季節の変化を感じさせます。

[写真：市役所前]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 木の実をつける樹種を街路樹に用いて、季節を感じさせます。

[写真：本町通り]



- 公園や緑地などのオープンスペースでは、落ち葉を踏みしめる感触や音を楽しみながら、季節を感じることができます。



コラム⑦

オープンガーデン

本市では、市民の皆さまが丹精込めて育てた花や緑で彩った自宅の庭を、一般の方へ無料で公開する、「オープンガーデン事業」を平成16年にスタートしました。当初の登録は47件でしたが、現在では、洋風や和風の庭、公共の花壇や施設の花壇など約70件が登録され、大きく広がっています。

登録された庭は毎年発行する「オープンガーデンガイドブック」に掲載され、公共施設、観光情報センター等にて無料配布をしています。庭づくりの参考にしたいかがでしょうか。



オープンガーデンガイドブック



オープンガーデンバスツアーの様子

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン手法

調和を保つ

郊外のゆとりある街路や城下町の名残をとどめる小路など、まちには様々なスケールの通りがあります。その空間に応じて、緑を適切に配置し、まちの魅力を高め、歩きはじめるきっかけを提供します。



- 樹幹が大きく印象的な街路樹を一定間隔で配置し、スカイラインが揃った統一した景観を形成します。
- 圧迫感を感じさせないように、道幅に応じて大きくなりすぎないような手入れが必要です。

[写真：松原地区]



- 足元に緑と花を配置し、街路樹と一体となった華やかさのある開放的な空間とします。

[写真：神明町]



- 歩行を妨げない太さ、高さの樹木を配置し、潤いのある水と緑の空間とします。

[写真：源智の井戸周辺]



- 城下町の名残を感じさせる小路の空間に、少量の緑を配置し、小路の雰囲気盛り立てます。

[写真：同心小路]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他

緑のデザイン手法

緑陰をつなぐ

緑が作り出す緑陰は、日差しを遮り、やわらかな木漏れ日をもたらします。連続した緑陰をつくり、思わず歩きたくくなるような心地良い空間を提供します。



● 河川の開放的な空間に沿って、街路樹を連続させ、緑のトンネルをつくります。



● 歩行者や自転車の通行に配慮して適切なせん定を行い、圧迫感を和らげ、安全を確保します。



● 一定の間隔で植えた街路樹が、ゆったりとした郊外の住宅地を印象付けます。

[写真：小宮地区計画区域]



● 歴史的な情緒を壊さないように、樹種の選定や空間にあわせた配置がされており、歩きたくくなるような趣のある空間を生み出します。

[写真：他都市の事例]



● 高木による緑陰が連続した歩行者専用の大通りでは、オープンカフェも出店し、歩く人のための空間を提供します。

[写真：他都市の事例]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン方針

(2) 立ち止まる魅力をつくる

- 緑陰をつくり、立ち止まり、安らぐことができる空間をつくります。
- 気軽に触れ、親しむことができる、まちなかの緑を提供します。

緑のデザイン手法

緑陰をつくる

多くの交流や活動を生み出すまちの中に、癒しや安らぎのスポットとなるような緑陰の空間を設け、ひと時の休息をもたらします。



- 来街者や働く人が多い通りに面して緑陰を設け、まちを歩く人々の憩いと休息の場とします。

[写真：千歳橋北側]



- 街路樹と公共施設の樹木が調和し、季節感を感じさせるバス待ち空間とします。
- バス停を挟んで、街路樹と公共施設内の樹木が配置され、大きな緑陰をつくり出します。

[写真：総合体育館バス停]

緑のデザイン手法

緑に触れる

湧水や山並みなどの地域の特色を活かして、緑の豊かさを感じ、親しむことができる場を整えることによって、緑がもたらす恩恵を再認識する機会を増やします。



- 記念碑の周りを花で彩り、来街者の目を引き付け、花いっぱい運動発祥の地であることを伝えます。(P38 コラム⑧)

[写真：千歳橋北側]



- 屋上を緑化(トップガーデン)し、中心市街地を一望できる開放的な空間を提供します。
- 緑が少ないと感じられる中心市街地では、公共施設等の屋上緑化と周囲の山々を見渡せる優れた眺望を組み合わせることで松本らしさを感じる場を提供します。

[写真: まつもと市民芸術館]



- 清らかな水が湧き出でる井戸は、多くの来街者をひきつけます。
- 湧水と一体となった緑の空間は、人々の集いや憩いを生み出し、清らかな湧水に触れる機会を提供します。



- 中心市街地を流れる川の橋は、遠くの山並みを望むことができる視点場*となります。
- 写真を撮る観光客をもてなし、その近くに樹木やベンチを配置します。

*視点場 ある景観を眺める立ち位置・ビューポイント。丘の上や橋の上など良好な景観の得られる場所や、大通りなど多くの人から見られる場所が視点場となる。

[写真: 女鳥羽川・一ツ橋]



- 花や木を利用した花時計等の遊び感覚を取り入れます。
- 時計と噴水による演出のように、楽しみを組み合わせます。

[写真: 中央西公園(花時計公園)]



中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン方針 (3) 空間を演出する

- 水や光、風に配慮して、豊かさの感じられる空間を演出します。
- つながりある緑の空間をつくります。

緑のデザイン手法

水や光、風に配慮する

四季折々の変化に加えて、湧水や河川、建物の間を抜ける風や日差しなどに配慮して、緑の魅力を引き立てる演出をします。水辺の緑の演出や、公園や河川を緑でつなげることは、生きものの生息生育環境の分断化を防ぎ、生物多様性の確保にもつながります。



- 建物と街路樹の高さの均衡をとります。
- 街路樹の緑陰が歴史ある建物に映しだされ、まちの魅力を引き立てます。

[写真：旧第一勧業銀行]



- 水路の中や岸辺に植栽や花壇を配置し、流れに変化を持たせ、水辺の表情を演出します。

[写真：榛の木川]



- 市街地を流れる川や緑は、行き交う人々の視線を休め、風の通りみちとなり、生きものの移動空間となります。
- 適度な管理により、潤いを保ちながら、近づきたくなる環境を整えることも大切です。

[写真：女鳥羽川河川敷]



- 田園地帯に配慮した自然護岸のビオトープ[※]は、周囲の風景に馴染み、生きものが生息生育する環境となります。
- 地域と連携した、環境保全活動が大切です。

※ビオトープ 動物や植物が恒常的に生活できるように造成または復元された小規模な生息空間です。

[写真：車屋堰]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 水路などに面してオープンスペースがある場合は、コンクリート三面張りの水路構造を見直し、流れと一体となった水辺の緑化が望めます。

緑のデザイン手法

連続性を確保する

つながりのある緑をつくり、一体感のある空間と豊かな生物相を育みます。異なる樹種や花々との組み合わせ、つながりを意識した植栽の配置などで一体感を演出します。



- 路地の両側を生垣と玉物で仕上げ、奥行きのある一体的な空間を演出します。
- 人の背丈程度の高さで揃えることにより、圧迫感を和らげ、落ち着いた包み込む空間とします。



- 建物を取り囲む歩行空間を挟むように、樹木と水路を配置し、緑の帯を連ねます。

[写真：松本市美術館北側]



- 地域の住民が主体となって鉄道沿線に植えた花の街道は、乗客の目を引き、目的地までの街道を彩ります。

[写真：上高地線]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他





花いっぱい運動発祥の地 松本

“花いっぱい運動”この運動は、昭和27年4月8日、戦後の街が荒廃し人々の心がすさむ中、小松一三夢氏によって松本市から始められました。以来この運動は、町会連合会をはじめ、多くの市民有志の共感と協力のもと、全国、世界へと発展し、今では「花いっぱい」は、世界の共通言語ともなっています。

花を育てることによって、心にも花を咲かせようとする花いっぱい運動は、街を単に花で飾ることに止まらず、清掃活動や川をきれいにする運動、自然保護運動へと繋がっていききました。

小松一三夢氏は、花いっぱい運動の心をこう表現しています。「花いっぱい運動は、単に花を作ることではない。社会を美しく、明るく、住みよいものとし、人の心を善意溢れるものとするための一つの手段として、花を育てるのである。つまり、人の心に美しい大輪の花を咲かせるものである。」



緑のカーテンによる環境教育

小中学校環境教育支援事業
緑のカーテン設置指導

市内の小中学校において、松本市緑化協会による「緑のカーテン設置指導」が行われました。地球温暖化の現状について学び、緑のカーテンの設置の意味や効果、種の植え方から、管理方法を学び、児童・生徒自らが緑のカーテンを育て、涼しい夏を過ごしました。



中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



緑のデザイン目標

II-5 地域と調和し、活力を生み出す【公共施設】

公共施設やその敷地では、地域と調和し、活力を生み出す緑をデザインします。

緑のデザイン方針

(1) 楽しむ空間をつくる

- 地域の緑の拠点として、先導的に緑化を推進し、楽しめる空間をつくります。

緑のデザイン手法

園庭の芝生化など、緑との関わりを通して楽しむ空間をつくります。公共施設の中庭などは、開放的な緑化の空間とし、市民に親しまれる利用しやすい憩いの場とします。



- 保育園の園庭などを芝生化し、子どもたちが自ら進んで外遊びや運動ができる環境を整え、楽しみながら緑と親しむ機会を増やします。



- 建物に囲まれた中庭を芝生で覆い、周囲にベンチなどを配置することで、開放的な空間とします。

[写真：松本市美術館]



- イベントの開催にあわせて、特徴的なオブジェや鉢植えて盛り上げ、ワクワクした空間を演出します。

[写真：松本市音楽文化ホール]

- 中心市街地
- 市街地
- 田園・里山
- 公共空間
- 公共施設
- その他



- 学校の花壇づくりに取り組み、色鮮やかな空間をつくれます。
- 心をこめて育て、手入れをする中で、豊かな心を育みます。

緑のデザイン方針 (2) 印象付ける

- シンボルツリーなどにより、施設を象徴し、印象付ける工夫を施します。

緑のデザイン手法

シンボルツリーの配置、壁面緑化や屋上緑化などの工夫により、公共施設の規模を活かした緑の空間を演出します。



- エントランスに大きなシンボルツリーを植えることで、人工的な建物の印象を和らげ、周囲の空間を修景します。
- 高木の成長をイメージして樹種の選定や配置を検討し、将来にわたってシンボルとなり続けるように管理します。

[写真：まつもと市民芸術館]



- 建物の入口に向かう通路の両側を修景緑化し、建物へ誘います。

[写真：松本市文書館]



- 施設の新築にあわせて若木を植樹し、その成長にあわせて建物と調和した緑の空間を育てます。

[写真：あがた児童センター]

緑のデザイン方針

(3) 環境や地域に配慮する

- 地域との調和を大切にして、施設を緑化します。

緑のデザイン手法

既存樹木の伐採は最小限とするなど、周囲の生活や活動などに配慮して、地域との調和を大切にしながら、新たな活力を生み出す緑化を行います。



- 現地にある緑を活かし、周囲との調和を意識した建物(公衆トイレ)を整備します。
- 見通しが利かない危険な空間とならないように、こまめな手入れが求められます。



- 施設周辺の環境に配慮して、敷地内にラベンダー畑をつくります。
- 広く公開することで、園児などの散歩先となり、花を愛でる人々も訪れる場となります。

[写真：宮渕浄化センター]



- 戸建て住宅などに比べて大きな緑のカーテンを設置し、環境に対する意識の啓発・PRをします。

[写真下：松本市上下水道局]



中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他





緑のデザイン目標

II-6 歴史・文化に配慮して、地域の環境を守る

受け継いできた歴史・文化に配慮して、地域の環境を守る緑をデザインします。

緑のデザイン方針 (1) 歴史・文化を伝える

- 永きにわたって守られてきた緑を次代へ引き継ぎます。

緑のデザイン手法

松本らしさを感じる歴史的な建造物などと一体となった樹木や公園、保存樹や天然記念物などは、地域の宝として、次代へ引き継ぎます。



- 受け継いできた大木は、地域の歴史として次代へ引き継ぎます。
- 重要文化財馬場家住宅祝殿裏のケヤキは、樹齢800年を超え、市特別天然記念物の指定を受けています。



- ブナノキ権現は、牛伏寺から鉢伏山までのハイキングコースの道しるべとなり、登山者のシンボルツリーとして大切にされています。



- 梓川大宮熱田神社や波田安養寺など、地域の歴史を伝える文化財と一体となった多くの緑を守り、引き継ぎます。

[写真左：梓川大宮熱田神社]
[右：波田安養寺]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- 沿道の植栽により、歴史ある温泉地がもつ風情を大切にし、観光客が歩きたくなるような通りの連続性をつくります。



- 生垣が連続した緑豊かな住居空間をつくります。

[写真：城山風致地区]



- 背景の東山と民家の樹木とが調和した住居地景観を保ちます。

[写真：浅間風致地区]

緑のデザイン方針

(2) 遠景を考慮する

- 周囲の山々へつながる緑の空間を守ります。

緑のデザイン手法

幾多の河川が集まり、周囲を山々に囲まれた本市では、河川や街路を通した遠景の眺望も松本らしさを感じる緑の空間として守ります。



- 河川軸を通して見渡せる眺望は、奥にある山々を際立たせ、開放的で印象的な空間をもたらします。

[写真左：薄川 右：女鳥羽川]

中心市街地

市街地

田園・里山

公共空間

公共施設

その他



- まち並みと一体となった眺望景観を大切にし、歩く楽しみを提供します。
- 遠方への視線が電柱などで遮られることもあり、まちの魅力を高めるためにはその改善も不可欠です。

[写真右：中町通り]



- アルプスや美ヶ原を見渡す眺望は、岳都・松本を感じさせる緑の景観として大切にします。
- 田園と周囲の山々を見渡す光景も、松本を感じさせる緑の景観です。

緑のデザイン方針 (3) 緑との関わり

- 日々の暮らしの中で緑との関わりを大切にします。

緑のデザイン手法

樹木がつくる心地良い空間や花々の輝きなど、緑の効果や恩恵を感じる一方で、隣地や車道へ張り出した枝葉や落ち葉をめぐるトラブルなども発生しています。緑が持つ恵みや豊かさを感じながら、人と緑の関わりを見つめ直す機会とします。



- 地域が連携して公園の清掃などを行い、地域で緑を守ります。
- 学校教育の一環として、児童・生徒が学校周辺の落ち葉清掃を実施し、緑との関わりを学びます。



- 中心市街地の井戸では、地域住民が主体となって清掃や花壇づくりに取り組みます。